

## 参加者からの声

3市がそれぞれに企画した連続講座にたくさんの方が参加されました。講師の話聞き、ワークショップに参加して、知り・気づき・つながる時間を共有しました。また、連続講座に3回以上参加された方49人の方には「修了証」をお渡ししました。

### 清瀬市コース

#### 第1回目 つながりは安心をつくる (P8)

●東日本大震災から6年以上経つのに、私自身の地域ではまだ避難所運営協議会すら立ちあがっていません。もう少しスピード感を持って活動していきたいがどのようにすればいいのかも考えたいです。

(50代女性)

●今後の自治会活動や、避難所運営委員会の場等に活用したい。

(70代男性)

●地域には多種多様な人が住んでいるということ。災害時にペット、介助犬はどうするのか等々。改めて気づかされた事が多い講座でした。

(60代女性)

●女性リーダーの大切さが印象に残りました。地域の女性に防災意識を広めていきたい。宗片先生のお話も、黒須さんのお話も、実例を交えてお話しして下さったので大変参考になりました。震災が起こる前の備えが大切だと思いました。

(50代女性)

#### 第2回目 どうする？ 避難所トイレ問題に 대응 (P9)

●災害時のトイレに関する知識は全くないにも関わらず、知りたいことはたくさんあり、参加できて本当によかったです。「トイレも被災する」はとても印象に残る言葉でした。

(50代女性)

●非常用トイレを各自用意することの大切さ！が印象的でした。マンションでは震災後に風呂水でトイレを流さない事の徹底を地域活動で活かしたい。

(50代女性)

#### 第3回目 避難所運営体験ゲームで対応力をつける (P10)

●「いまできることしか災害時にできない」という言葉が印象に残った。避難所運営ゲームは非常に勉強

になりました。地域の避難所についても改めて調べてみたい。

(30代女性)

●防災訓練に参加しましたが、大きな動きで、今回のような様々な小さな事が勉強でき良かったです。

(70代女性)

●避難所運営ゲームは正解がなくても大体の設営場所や分け方の目安、方向性を示していただくと、参考にできると思います。今回学んだことを持ち帰り、具体的に地域に

広げる際に、小規模で勉強会が出来ると思います。

(50代女性)



### 東久留米市コース

#### 第1回目 いつ起こっても大丈夫！ (P11)

●「想像力」が大切、問題解決にはスピードが勝負、さらに地域づくりの中で必要な事など考えさせられました。

(40代女性)

●現場に密着した話題の豊富さに迫力が有って、有意義だった。

(70代男性)

#### 第2回目 わたしと地域がつながる防災 (P15)

●「別の視点からみることを養う」ことは、前回の講座の「想像力を大切にする」ことと同意だと思いました。今回のワークショップを通じて、実際に様々な意見を伺い、それぞれの立場での考え方がとても参考になりました。

(40代女性)

●健常者だけではなく、障がいを持つ方、病人、小さい子どもをかかえる人、外国人の方、地域の中には様々な人が住んでいる。その中で感じる事を共有する。必要な事を考える事が大事だと思いました。

(60代女性)

#### 第3回目 絶対気になる!! トイレの話 (P9)

●日頃からの備えと平時からの地域の結びつきが大事だと回を追うごとに、強く感じました。自治会のない我が家の地区、作りたいと思います。

(60代女性)



ファシリテーター黒須さんの説明 (清瀬市2回目)

●「非常時には普段の地域力が現れる」という言葉に衝撃、がーん！でした！連続講座での様々なワークショップでは、初めてあった人ともとにかく話す！それは「人の考えと自分の考えは違う」という当たり前のことに気付く大きな機会でした。

小グループのリーダー役をやった際には、おろおろしていると、声をかけてくださる方、まとめる紙をずっと引き受けて書きこんでくださる方、いろんな人の力に触れる機会となりました。普段の地域力を磨くために、こうした対話の機会を意識的に作っていくことが大切だと気づかされた時間でした。さっそく動き出さねば！ (40代女性)

●いつ起こるともわからない大災害の心配をするよりも、日々の生活の心配のほうに気持ちが揺れ動き、なかなか防災学習が身に付かない自分があった。地域のみんなで助かり、助け合うための共助をするには、何をすべきかを考える良い機会となりました。

- ・避難所では人生経験を活かし、想像力を働かせることが重要と気づいた。
- ・避難所はまさに地域社会の凝縮。平常時の生活環境づくりが大事である。
- ・トイレは大きな課題。これをクリアしなければ、避難生活が成り立たない。 (60代男性)

●連続講座に参加して2つの収穫がありました。1つは講演の中で取り組まれた“防災〇×クイズ(クロスロードゲーム)”で、正解、不正解はないという前置きでしたが、様々な角度からみた多様な意見、「なるほど！」という意見も多々あり、自分ならこうすると思っていたことも他方の考えを聞くと改めて目から鱗というもありました。実際に災害に遭遇したことがないので、災害のイメージが薄く、どう動くかということも漠然としており、他の方たちの考えはとても参考になりました。2つ目は、班ごとに分かれて意見交換をした時でした。耳の聞こえない人と身近に接する機会が少なかったようで、初めは戸惑っていた様子が見られましたが、進むにつれ、意見を言う時は手を挙げて一人ひとり発言するなど聞こえない人と一緒に時の気配りを体験していただくことができました。この体験は実際の避難場所での



障がい者に対するサポートに結びついてくれるかも知れないと思い、参加して良かったと思いました。 (70代女性)

## 西東京市コース

### 第1回目 防災、西東京市の現状は？(P16)

●避難所ではより多くの配慮が必要になり、今から様々な視点で考えることの必要性を考える良いきっかけになりました。「誰かがやらなければならないという気持ちを誰もが持つこと」という言葉がとても印象的で心に残りました。自分も含め、皆がそのような気持ちを持って行動できるようにどうしたら良いかを考えなければならないと感じました。起こりうる問題の把握とそれに対する具体的な対策方法を1つでも多く学び、いざという時に行動できるようになりたいと思いました。 (20代女性)

●消防隊員として災害時に最前線に立っておられた方のお話にはリアリティがあり、印象に残りました。もしもの時、私も辛い思いをするかもしれませんが、おおらかな気持ちで冷静に思いやりをもってやっていきたいと思いました。ボランティアを受け入れる力が必要ということでしたが、知らない人がボランティアとして来てくださっても、すぐには信用できない気がします。身元がしっかりしていて、訓練を受けた方だと安心できると思うので、全国にボランティア・市民活動センターのような機関があって、ボランティア訓練ができる場がたくさんあればいいなと思いました。 (30代女性)

### 第2回目 避難先でのトイレのはなし(P9)

- 生活者の視点、平時のつながりが防災や災害対応に重要と改めて認識した。 (40代女性)
- 万が一の時にきれいなトイレを運営する方法をしっかり考えないと思いました。 (50代女性)

### 第3回目 災害時に女性の視点を生かす(P8)

- 宗片さんの活動力(行動実行力)に学ばせていただきました。楽しく有意義でした。 (70代女性)
- 一人ひとりの復興という言葉が印象に残りました。 (60代男性)
- 防災時の対応に女性の視点が必要です。トイレのこと、消火のこと、障がい者の方との共同でできることなどの実践には皆での練習も必要だと思う。もし、昼間に災害が起こったら、高齢者や子どもも中心となるので、この方たちの参加も必要です。語りサロンなどを開いて直接話を聞きたい。 (60代女性)

